

最後まで愛される方

ヨハネの福音書 13 章 1-11 節

はじめに

イエス様は、十字架に架かれる前の日の夜、弟子たちの足を洗われたのです。イエス様は、ご自分が十字架に架かれる日が近いことを知っておられました。そこでイエス様は最後に、弟子たちへの愛を示すために、彼らの足を洗われたのです。では、なぜイエス様は、「足を洗う」という行為を選ばれたのでしょうか。「足を洗う」という行為には、どんな意味があるのでしょうか。

1. 足を洗うことの意味

「足を洗う」という行為は、本来、「奴隷」が行うものでした。イエス様は、ご自身が「奴隷」のようになって弟子たちの足を洗うことによって、弟子たちにも、お互いに「奴隷」のようになって仕え合うようにと「模範」を示された、これこそイエス様が弟子たちの足を洗われたことの一つの意味です。いわゆる道徳的な教えのために「足を洗われた」ということです。しかし今日の聖書箇所を見ると、イエス様が弟子たちの足を洗われたという行為には、道徳的な教え以上の意味があるように思います。

マタイの福音書とマルコの福音書とルカの福音書には、イエス様が十字架に架かれる前の日の夜の出来事として、イエス様がパンとぶどう酒を分け与える出来事が書かれています。しかしヨハネの福音書には、その出来事の代わりに、イエス様が弟子たちの足を洗われるという出来事が書かれているのです。その意味で、イエス様が弟子たちの足を洗われるという出来事は、パンとぶどう酒を分け与える出来事と同じような重要性があると言えます。ご存知のように、パンとぶどう酒を分け与える出来事は、私たちの教会でも毎月行う「聖餐式」の原型となったものです。そして「聖餐式」は、イエス様の「十字架の死」を表します。そのように考えると、イエス様が弟子たちの足を洗われるという出来事にも、「聖餐式」と同じような意味、つまりイエス様の「十字架の死」を表すという意味が込められているのではないかと思います。

というのは、4 節でイエス様が「**上着を脱がれた**」と書かれていますけれども、この「脱ぐ」という言葉は、「捨てる」とも訳せる言葉です。そしてこの言葉は、新約聖書では、イエス様が「いのちを捨てる」という時に使われる言葉です。ですからイエス様が「上着を脱がれる」という行為は、イエス様が「いのちを捨てる」という行為を象徴的に表しているように思うのです。

また 10 節でイエス様は、「**水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいので**

す。あなたがたはきよいのです」と言われています。ここからイエス様が弟子たちの足を洗われるという行為は、道徳的な教え以上に、弟子たちを「きよめる」ものであるということが分かります。

さらに 8 節でイエス様は、ペテロに向かって「**わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります**」と言われています。イエス様が弟子たちの足を洗われるという行為は、イエス様と弟子たちとの関係において不可欠な行為だと言われています。イエス様と弟子たちに不可欠な行為というのは、道徳的な教えではなく、イエス様が弟子たちを「きよめる」ために、「いのちを捨てる」という「十字架の死」以外にはないのではないかと思います。

以上のことから考えると、イエス様が弟子たちの足を洗われたという行為には、道徳的な教え以上に、イエス様が弟子たちを「きよめる」ために「いのちを捨てる」という「十字架の死」の意味が込められていると言えるのではないかと思います。

2. ペテロの態度

今日の聖書箇所のおもな登場人物は、弟子のペテロです。ペテロは、イエス様が自分たちの足を洗われるという行為に、このような意味が込められていることが分からなかったので、「**決して私の足を洗わないでください**」とか「**主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください**」と言います。ペテロはこの時、イエス様に足を洗ってもらうなんて申し訳ない、自分こそイエス様の足を洗うべきだと考えていたのです。またイエス様が自分のために「いのちを捨てる」なんて考えもせず、自分こそイエス様のために「いのちを捨てる」べきだと考えていたのです。

実際、ペテロはこの後、13 章 36 節以下で、イエス様に向かってこのように言っています。「**あなたのためなら、いのちも捨てます**」。しかしペテロは本当に、イエス様のために「いのちを捨てた」のでしょうか。ペテロはイエス様が十字架に架かれる時、イエス様を三度も「知らない」と言ってイエス様を「捨てる」のです。

3. 「足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです」

イエス様は、ペテロが御自分を「捨てる」ことをよくご存知でした。しかしイエス様は、それを知った上でペテロの足を洗い、「あなたがたは、きよい」と言われたのです。イエス様はなぜ、御自分を「捨てる」ペテロに対して、「あなたは、きよい」と言うことができたのでしょうか。それは、イエス様が「ペテロ」のために「十字架」で「いのちを捨てて」、その流された血によって、ペテロの罪を洗い「きよめる」からではないでしょうか。

イエス様は「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです」と言われました。イエス様に足を洗われた者は、「全身がきよめられる」ように、イエス様の流された血によって罪を洗い「きよめ」られた者は、「すべての罪を洗いきよめられる」のです。ヨハネの手紙第一 1 章 7 節に、「**御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくだ**

さいます」と言われている通りです。

イエス様に足を洗われた者とは誰でしょうか。それは、イエス様に十字架で「いのちを捨てて」いただいた者たちです。イエス様の流された血で、すべての罪をきよめられた者たちです。つまりイエス様を信じる人のことです。イエス様を信じる人は、イエス様の流された血によって、すべての罪を洗いきよめられているのです。

おわりに

イエス様はペテロに対して、「**わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります**」と言われて足を洗われました。イエス様が足を洗われることは、イエス様の流された血によって、すべての罪を洗いきよめられることを意味します。教会では、イエス様を信じた時に、水で「洗礼」を受けます。実は洗礼も、イエス様の流された血によって、すべての罪が洗いきよめられたことを、目に見えるしるしとして表したもののなのです。私たちの教会では、人の足を洗うことを特別には行いません。教会によっては、互いに仕え合うことを学ぶために、互いの足を洗うことを定期的に行う教会もあります。互いの足を洗うというのは、互いに仕え合うことを学ぶ道徳的な教えでもあるからです。しかし、イエス様が弟子たちの足を洗ったという行為は、何よりも弟子たちのすべての罪を洗い流すという霊的な意味があります。それはむしろ、「洗礼」と同じような意味が込められているのです。イエス様は、ペテロの足を洗う時、「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります」と言われました。同じように「洗礼」も、イエス様がなさったことのすべてが分かってから受けるものではないのかもしれませんが。イエス様のすべてが、聖書のすべてが、キリスト教のすべてが分かってから受けるものではないのかもしれませんが。イエス様は、分からないままのペテロの足を洗われたのです。イエス様は「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります」と言われました。もし私たちが、イエス様のことも聖書のこともキリスト教のことも、完全には分からないけれど、ただイエス様との交わりの中で生きていきたい、イエス様の愛の中で生きていきたい、そういう思いがあれば、誰でも「洗礼」を受けることができるのではないかと思います。また、すべての罪を洗い流していただくことができるのではないかと思います。

イエス様は私たちに、イエス様についてすべてを知ることが求めているわけではありません。そうではなく、自分の足を差し出すことを求めているのではないかと思います。私たちは、人に自分の素足を差し出すのは抵抗があります。汚れていて、匂いがある、毛深くて、不格好であればなおさらです。人にどう思われるかを考えてしまうからです。しかしイエス様の前には、勇気を出して、自分の素足を差し出すことが大切なのです。それは、醜い自分の心を、本当は自己中心で愛のかけらもない自分の心を、怒りと憎しみに満ちた自分の心を、そういうありのままの自分の心をイエス様に差し出して、「イエス様、私の心を洗ってください」と差し出すことが大切なのです。何も難しいことではありません。その気になれば、今すぐに、この場でできることです。イエス様を信じるとは、そういうこ

とです。キリスト教の信仰とは、そういうことだと思います。

「洗礼」をすでに受けている皆さん。皆さんはすでにイエス様によって、すべての罪を洗い流していただいていると言えます。そのことの目に見えるしるしとして、皆さんは「洗礼」を受けたのです。イエス様は皆さんに、「あなたは、きよい」と言ってくださるのです。皆さんのありのままの姿をすべてご存知のイエス様が、十字架で「いのちを捨てて」、その流された血によって、皆さんのすべての罪を洗いきよめてくださったからです。皆さんの罪をすべて知った上で、イエス様はなおも、「あなたは、きよい」と言ってくださるのです。

1 節に「**世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された**」とあります。イエス様は、御自分の愛する者の足を洗われたのです。私たちが今、「洗礼」を受けてイエス様にすべての罪を洗いきよめていただいているなら、私たちは今、イエス様の「愛」の中に生かされていると言えます。イエス様は地上の生涯の「最後まで」、弟子たちを愛されました。同じようにイエス様は、「最後まで」私たちを愛してください。私たちの生涯の終わりまで、死に至るまで、また世の終わり、最後の審判の時まで、私たちを愛し抜いてくださるのです。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わされた御子イエス様は、ご自身が愛される者の足を洗い、彼らのためにご自身の命を捨てて十字架に架かり、すべての罪を洗いきよめてくださいました。私たちも洗礼を受け、すべての罪を洗いきよめていただきました。なおも完全には罪の性質を拭えない者ですが、それでも「あなたがたはきよいのです」と言ってくださる恵みに感謝いたします。イエス様の十字架の奉仕を私たちが拒むことがありませんように。罪で汚されたありのままの自分自身を、あなたの前に差し出すことができますように。どうか、私たちを最後まで、あなたの愛の中に生かしてください。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。